

第5章

地域別構想





1 地域別構想について

1-1 地域区分について

本市は、2005（平成 17）年に旧宇土郡三角町、不知火町、下益城郡松橋町、小川町、豊野町の 5 町が合併し現在の宇城市となりました。現在においても、各地域の中心部において、地域住民の生活が営まれていることから、その生活環境を維持・活性化するとともに、豊富な地域資源や地域の特色を活かした地域づくりを目指すことが重要です。

そこで、地域別構想における地域区分の考え方として、各地域の特色を活かしたまちづくりを目指すため、地域区分を「三角地域」「不知火地域」「松橋地域」「小川地域」「豊野地域」の 5 つの地域に分類します。

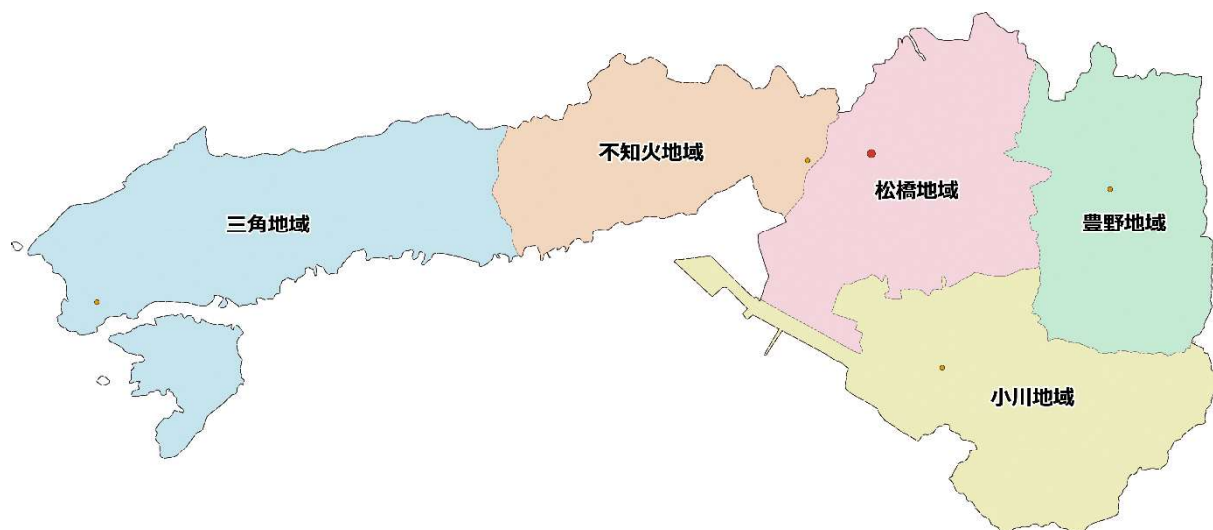


図 地域区分

2-1 三角地域

(1) 地域の現状

法適用		<ul style="list-style-type: none"> ● 地域全域が都市計画区域外 ● 平野部に農用地区域、山地部に民有林、その一部に国有林・保安林が分布
人口	分布	<ul style="list-style-type: none"> ● R2 人口 6,689 人（市全体の約 11.7%） ● 地域全域が 0.1～9.9 人/ha と低密度
	推移・見通し	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口は一貫して減少傾向 ● R27 には地域全域が人口密度 20 人/ha 未満となる見込み ● R2 高齢化率は 47.8%と市内で最も高く、市全体より早いペースで高齢化が進行 ● R27 では居住地全体で高齢化率が 50%以上となる見込み
土地利用		<ul style="list-style-type: none"> ● 三角港が立地する沿岸部やその後背地に建物用地が分布 ● 限られた低平地に水田の分布がみられ、丘陵地の広い範囲で農地が分布
道路・交通網		<ul style="list-style-type: none"> ● 地域沿岸部に国道 266 号、国道 57 号が配置 ● JR 三角駅、JR 波多浦駅、JR 石打ダム駅が立地し、その周辺は公共交通の利便性が高い ● 国道 266 号に路線バス、有明海側を快速あまくさ号が運行
都市施設・都市機能		<ul style="list-style-type: none"> ● 商業、医療、福祉、子育て支援機能は、主に幹線道路沿いに比較的分散して立地
災害リスク	洪水・土砂	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄道沿線を中心に洪水浸水想定区域や家屋倒壊等氾濫想定区域が指定 ● 傾斜地や山間部などに土砂災害警戒区域等が指定 ● 大規模盛土造成地が 5 箇所指定
	高潮	<ul style="list-style-type: none"> ● 南部の沿岸部や戸馳島の一部に最大で 5.0m 未満の高潮浸水想定区域が指定
	津波	<ul style="list-style-type: none"> ● 南部の沿岸部や戸馳島の一部に最大で 5.0m 未満の津波浸水想定区域が指定

(2) 市民アンケート

生活環境 (現在の満足度・ 将来の重要度)	総合	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合的な暮らしやすさの満足度ポイントは、「-0.19」で、最も低い ● 重要度ポイント平均「0.84」と意識が高い
	項目別	<ul style="list-style-type: none"> ● 利便性の「買い物」「医療施設」「公共交通機関」の満足度が低く重要度意識が高い ● 「土砂災害」「地震」「水害(大雨・洪水)」といった安全性に対する満足度が低く、重要度意識が高い ● 「水や空気」「自然の豊かさ」「自然景観の美しさ」といった快適性に対する満足度は高いが、重要度意識は低い
今後の都市づくりの 在り方		<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通の利便性低下を懸念する意見が他に比べ多い ● 郊外への市街地拡大は否定的
今後目指すべき方向性		<ul style="list-style-type: none"> ● 方向性を自然都市、観光都市とする意見が他に対し最も多い ● 方向性を住宅都市とする意見が他に対し最も少ない ● 活気あるまちづくりに力を入れてほしい意見が他に対し最も多い
居留意向		<ul style="list-style-type: none"> ● 住替え、転居志向が他に対し最も高い。 ● 転居理由として公共交通の不便性が他に比べ高い ● 住替える場合、医療・福祉サービスを重視する意見が他に比べ多い
土地利用		<ul style="list-style-type: none"> ● 空き家・空き地の多さが問題とする意見が他に対し最も多い ● 観光資源の開発を図る土地利用・市街地整備を求める意見が他に対し最も多い ● 農業体験や環境学習の場としての農地の役割が重要とする意見が他に対し最も多い
都市基盤	道路	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活道路の整備・改良を優先すべき意見が他に対し最も多い
	公園・ 緑地	<ul style="list-style-type: none"> ● 親水公園の整備・改良を優先すべき意見が他に対し最も多い
	景観	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然景観、歴史・文化景観の保全、整備及びルールづくりを優先すべき意見が他に対し多い
防災		<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所の生活環境確保、地域防災の促進を優先すべき意見が他に対し最も多い

(3) 地域づくりの課題

地域の現状から見た課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 定住化の促進とコミュニティの維持 ● 集落地の生活サービスの維持 ● JR 三角駅周辺における日常生活に必要な都市機能の維持・向上 ● 熊本・宇土方面、上天草・天草方面をつなぐ立地を活かした産業の振興 ● 自然環境と交通インフラを活かした観光の振興 ● 豊かな自然・景観資源の維持・保全・活用
市民アンケート結果から見た課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近な生活支援機能や交通利便性の向上 ● 居住環境の整備による定住化促進 ● 自然・景観資源の保全と活用 ● 地域防災性の向上

(4) 地域づくりの将来像

歴史・自然を活かした交流がおりなす
人々にやさしい暮らしができるまち

(5) 地域づくりの方針

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境や歴史的遺産等の地域資源を活かした観光と交流のまちづくりを推進します。 ● 身近な暮らしの生活利便性の確保と県都や周辺都市につながる立地と交通を活かしたまちづくりを推進します。
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ● JR 三角駅周辺の都市機能の維持・充実に努め、地域住民の生活利便の確保に努めます。 ● 三角西港や戸馳島のレクリエーション拠点と一体となった魅力ある観光地の創出に努めます。
基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ● JR 三角駅の交通結節機能の向上と利便性の強化を図ります。 ● 郡浦、戸馳、大田尾など宇土半島沿岸の交通利便性の確保に努めます。
自然・文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 三角西港を中心とした歴史・文化資源の保全及び周辺を含めた魅力的な景観形成を図ります。 ● 後背の山岳・丘陵地等の樹林は、美しい自然環境・景観資源として保全・活用を図ります。
防災	<ul style="list-style-type: none"> ● 海岸施設の保全・強化を促進します。 ● 避難路、避難場所の整備、避難計画の充実に努めます。 ● 災害時の冗長性の確保に努めます。

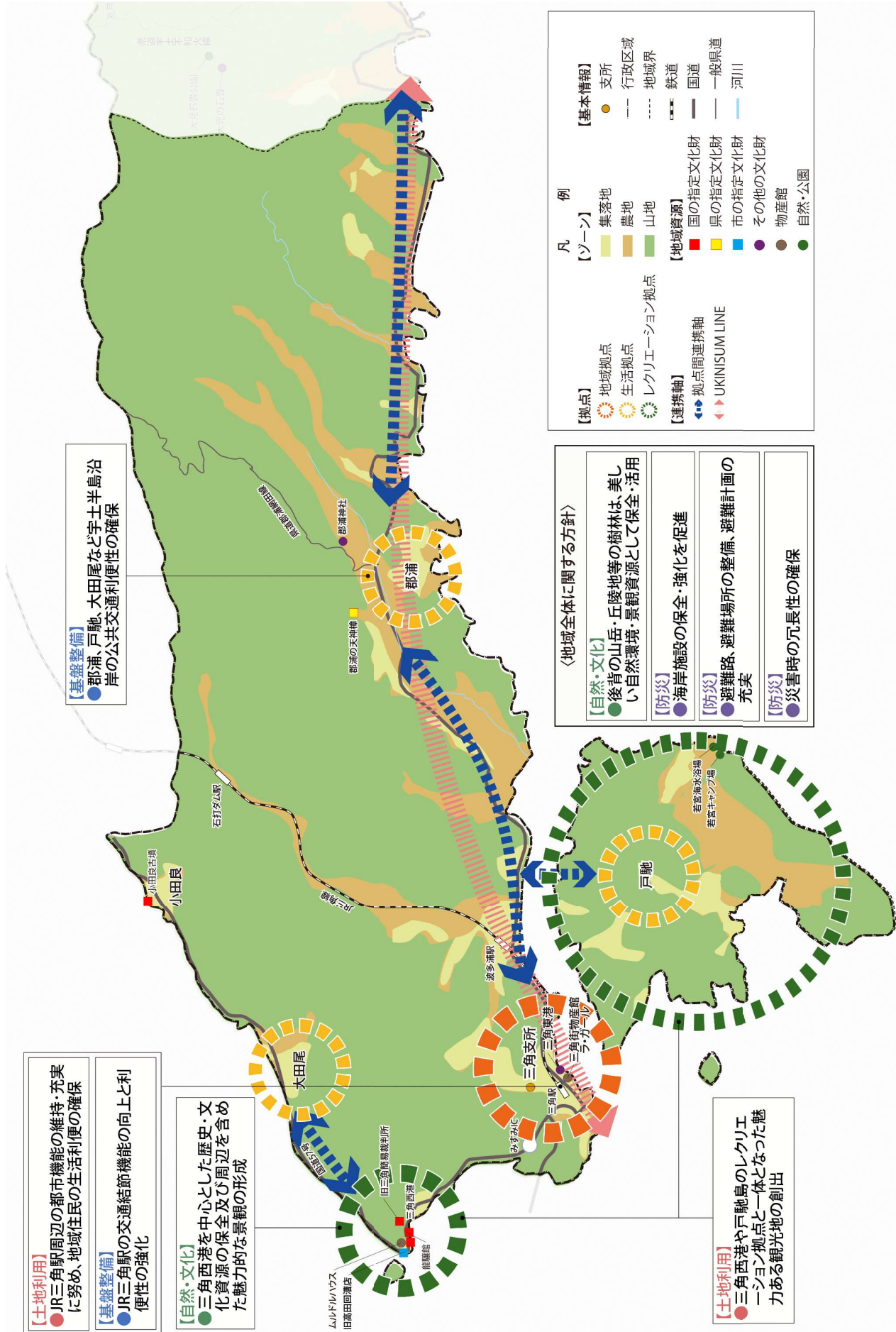


図 三角地域の地域づくり方針図

2-2 不知火地域

(1) 地域の現状

法適用		<ul style="list-style-type: none"> ● 地域東部に都市計画区域が指定 ● 平野部に農用地区域、地域北側の一部に国有林、地域の一部に保安林が分布
人口	分布	<ul style="list-style-type: none"> ● R2 人口 8,283 人（市全体の約 14.5%） ● 地域東部の都市計画区域に人口が集中
	推移・見通し	<ul style="list-style-type: none"> ● H12 まではほぼ横ばい、以降は減少傾向 ● R27 には地域全体で人口が減少するが、都市計画区域南部で高い人口密度を維持する見込み ● R2 高齢化率は 36.8%と市全体と同等に推移 ● R27 では居住地全体で高齢化率が増加
土地利用		<ul style="list-style-type: none"> ● 用途地域を中心に市街地、その周辺に田が分布 ● 都市計画区域外は沿岸に集落が点在し、後背地は農地が分布
道路・交通網		<ul style="list-style-type: none"> ● 地域沿岸部を国道 266 号が横断、松合出張所周辺から宇土市方面に主要地方道が縦断 ● 運行本数が往復 30 本/日を超える JR 松橋駅が立地し、その周辺は公共交通の利便性が高い
都市施設・都市機能		<ul style="list-style-type: none"> ● 用途地域を中心に公共下水道が整備済み ● 商業、医療、福祉、子育て支援機能は、用途地域内の鉄道沿線や幹線道路沿いに集中して立地
災害リスク	洪水・土砂	<ul style="list-style-type: none"> ● 河口部を中心に洪水浸水想定区域が指定、最大浸水深 3.0m～5.0m の区域あり ● 傾斜地や山間部を中心に土砂災害警戒区域等が指定 ● 都市計画区域外に大規模盛土造成地が 3 箇所指定
	高潮	<ul style="list-style-type: none"> ● 河口部を中心に高潮浸水想定区域が指定 ● 用途地域内に最大浸水深 5.0m 以上の区域あり
	津波	<ul style="list-style-type: none"> ● 河口部を中心に津波浸水想定区域が指定 ● 都市計画区域南側では浸水深 2.0～5.0m の区域あり

(2) 市民アンケート

生活環境 (現在の満足度・ 将来の重要度)	総合	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合的な暮らしやすさの満足度ポイントは、「0.25」で、満足傾向にある
	項目別	<ul style="list-style-type: none"> ● 利便性の「買い物」「通勤・通学」の満足度が高く重要度意識も高いが、「医療機関」「公共交通機関」は重要度意識が高いが、満足度が低い ● 文化性の「子育て」の満足度が高く重要度意識も高い ● 「水害」「地震」「交通」といった安全性に対する満足度が低く、重要度意識が高い
今後の都市づくりの 在り方		<ul style="list-style-type: none"> ● 持続可能なまちづくりに対する期待が他に対し最も高い
今後目指すべき方向性		<ul style="list-style-type: none"> ● 方向性を歴史・文化都市とする意見が他に対し最も多い。 ● 方向性を商業都市、流通産業都市とする意見が他に対し最も少ない ● 生活基盤の整備充実に力を入れてほしい意見が他に対し最も多い
居住意向		<ul style="list-style-type: none"> ● 定住志向理由として交通利便性が他に比べ多い ● 住替える場合、災害安全性を重視する意見が他に比べ多い
土地利用		<ul style="list-style-type: none"> ● 防災上危険な場所の存在が問題とする意見が他に対し最も多い ● 無秩序な開発の抑制、避難路や避難場所の整備を図る土地利用・市街地整備を求める意見が他に対し最も多い
都市基盤	公園・ 緑地	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存公園の再整備を優先すべき意見が他に対し最も多い
	景観	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然景観、歴史・文化景観の保全、整備を優先すべき意見が他に対し最も多い

(3) 地域づくりの課題

地域の現状から見た課題
<ul style="list-style-type: none">● まちなか居住の促進による人口密度の維持● 集落地の生活サービスの維持・確保● 都市拠点である JR 松橋駅周辺への都市機能集積● 不知火海の海岸景観や山岳景観の維持・保全・活用● 都市拠点へのアクセス性の向上● 市街地や集落地の防災対策の推進
市民アンケート結果から見た課題
<ul style="list-style-type: none">● 郊外部の公共交通の利便性向上● 無秩序な開発の抑制● 歴史・文化、景観など地域資源の活用● 地域防災性の向上

(4) 地域づくりの将来像

不知火海の文化が彩る
市の玄関口にふさわしいまち

(5) 地域づくりの方針

基本方針	<ul style="list-style-type: none">● 本市の玄関口となる JR 松橋駅を中心とした賑わいのある市街地形成を図ります。● 自然環境や文化的遺産等の地域資源を活かした魅力あるまちづくりを推進します。
土地利用	<ul style="list-style-type: none">● JR 松橋駅周辺の多様な都市機能の集積とにぎわいの創出を図ります。● JR 松橋駅西側や高良地区など市街地開発事業の可能性や宅地化の進捗状況を勘案しつつ、新たな用途地域の指定について検討します。
基盤整備	<ul style="list-style-type: none">● JR 松橋駅の交通結節機能の向上と利便性の強化を図ります。● 松合など不知火海沿岸集落の公共交通利便性の確保に努めます。
自然・文化	<ul style="list-style-type: none">● 地域固有の歴史、文化を継承する資源の保全、活用を図ります。● 北部の丘陵地等の樹林は、美しい自然環境・景観資源として保全・活用を図ります。
防災	<ul style="list-style-type: none">● 市街地の災害リスクを考慮した河川改修の促進と減災につながる避難路、避難場所の整備、避難計画の充実を図ります。● 海岸施設の保全・強化を促進します。● 災害時の冗長性の確保に努めます。

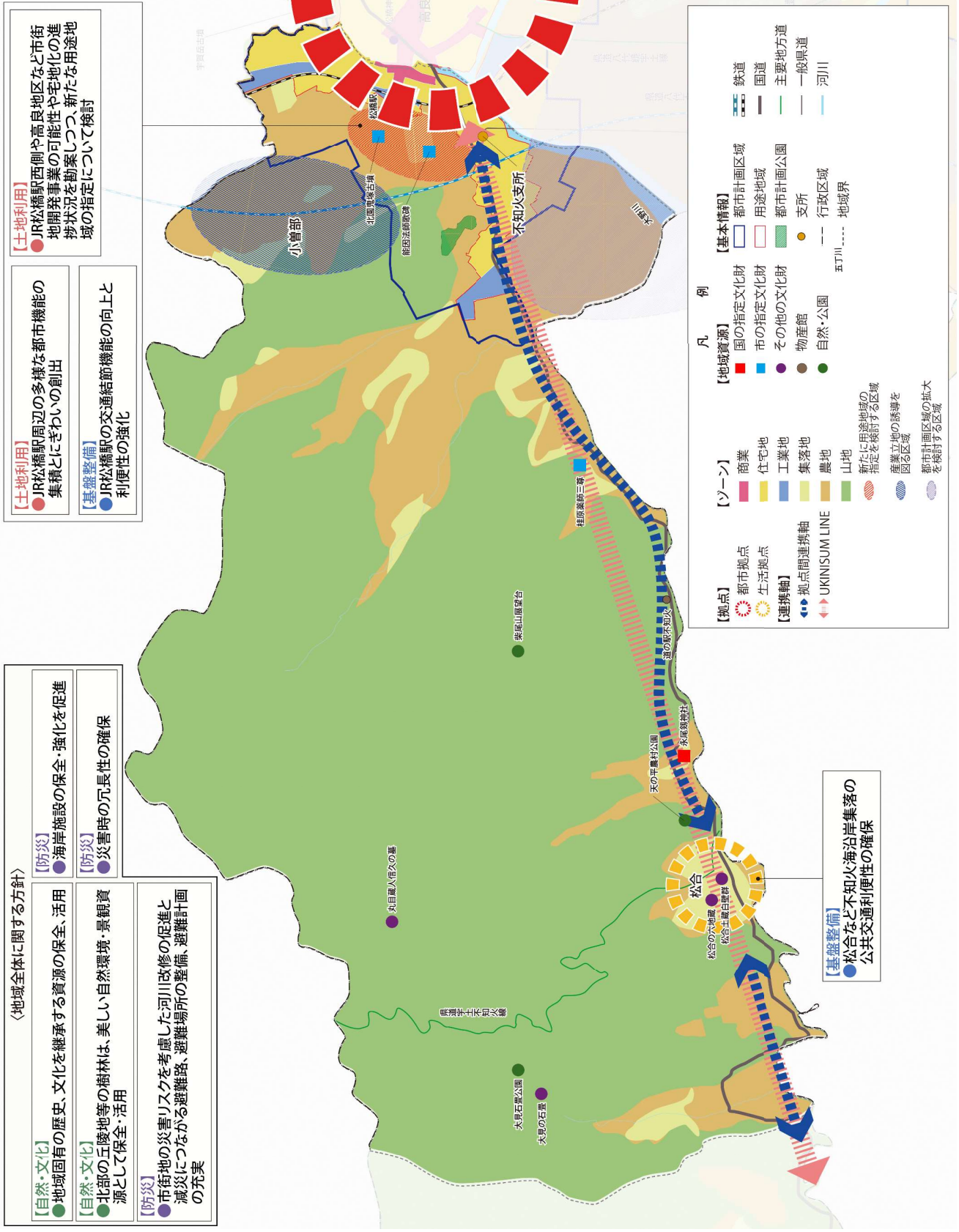


図 不知火地域の地域づくり方針図

2-3 松橋地域

(1) 地域の現状

法適用		<ul style="list-style-type: none"> ● 幹線道路を中心に南北に都市計画区域、市役所を中心に東西に用途地域が指定 ● 南西部に農用地区域、東部は部分的に保安林、民有林が分布
人口	分布	● R2 人口 25,945 人（市全体の約 45.5%）と市内で最も人口が多い地域
	推移・見通し	● 市役所西側、国道 3 号など南北幹線道路沿道に人口が集中
土地利用		<ul style="list-style-type: none"> ● 用途地域内から周辺にかけて都市的土地利用の占める割合が高い ● 松橋 IC に近接して工業地が分布
道路・交通網		<ul style="list-style-type: none"> ● 国道 3 号、218 号、266 号が放射状に配置 ● 市役所周辺の都市計画道路が未整備 ● 路線バスが地域の中心部から放射状に運行 ● 用途地域中心部から不知火にかけて公共交通利便性が高い
都市施設・都市機能		<ul style="list-style-type: none"> ● 用途地域を中心に公共下水道が整備済み ● 用途地域、幹線道路沿道に商業施設が立地 ● 医療、福祉、子育て支援機能は用途地域内に集積
災害リスク	洪水・土砂	<ul style="list-style-type: none"> ● 市役所周辺から南部の農地にかけて広範囲に浸水想定区域が指定、用途地域内にも想定浸水深 1.0m 以上の区域あり ● 砂川や浅川に家屋倒壊等氾濫想定区域が指定 ● 用途地域内と縁辺部の一部に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域が指定 ● 用途白地地域や都市計画区域外に複数の大規模盛土造成地が指定
	高潮	● 南部の農地を中心に浸水深 0.5~2.0m の高潮浸水想定区域が指定
	津波	<ul style="list-style-type: none"> ● 南部の農地から用途地域南側にかけて津波浸水想定区域が指定 ● 広範囲に浸水深 2.0~5.0m が想定

(2) 市民アンケート

生活環境 (現在の満足度・ 将来の重要度)	総合	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合的な暮らしやすさの満足度ポイントは、「0.40」で、小川地域に次いで高い ● 重要度ポイント平均「0.88」と最も意識が高い
	項目別	<ul style="list-style-type: none"> ● 利便性の「買い物」「通勤・通学」の満足度が高く重要度意識も高いが、「公共交通機関」については重要度意識が高いが、満足度が低い ● 「地震」「水害(大雨・洪水)」「交通」といった安全性に対する満足度が低く、重要度意識が高い ● 「日当たり・風通し」の満足度が高く「水や空気」「ごみ・し尿処理」に対する重要度意識が高い
今後の都市づくりの 在り方		<ul style="list-style-type: none"> ● 今後、公共施設の統廃合を懸念する意見が他に比べ多い
今後目指すべき方向性		<ul style="list-style-type: none"> ● 方向性を商業都市、福祉都市、教育・文化都市、流通産業都市とする意見が他に対し最も多い ● 方向性を工業都市、自然都市、田園都市とする意見が他に対し最も少ない ● 安全なまちづくりに力を入れてほしい意見が最も多い
居留意向		<ul style="list-style-type: none"> ● 定住志向理由として買い物や医療の充実が他に比べ多い ● 住替える場合、買い物や交通利便性の利便性を重視する意見が他より多い ● 転居場所は、市外を除き松橋地域の人気が高い ● 転居支援策として住宅購入・増改築や売却・除去に関する費用補助を求める声が他に比べ多い
土地利用		<ul style="list-style-type: none"> ● 市街地のオープンスペースの少なさが問題とする意見が他に対し最も多い ● 景観を守る農地の役割が重要とする意見が他に対し最も多い
都市基盤	道路	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩道や自転車道の整備・改良を優先すべき意見が他に対し最も多い
	公園・ 緑地	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近な公園、大規模公園の整備・改良を優先すべき意見が他に対し最も多い
防災		<ul style="list-style-type: none"> ● 河川整備を優先すべき意見が最も多く、他に対し最も多い

(3) 地域づくりの課題

地域の現状から見た課題
<ul style="list-style-type: none"> ● まちなか居住の促進による人口密度の維持 ● 生活利便性の向上と居住環境の充実によるまちなかへの居住の誘導と賑わいの創出 ● 用途地域縁辺部の無秩序な市街化の抑制 ● 松橋 IC 周辺の利便性を活かした工業・流通産業の立地促進 ● 人口が集中する市街地の防災対策の推進
市民アンケート結果から見た課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通の利便性向上 ● 身近な生活支援機能や住環境の維持・強化 ● まちなみ景観づくり ● 災害を未然に防ぐ防災対策

(4) 地域づくりの将来像

宇城市の発展をけん引する
多様な都市機能が集積した活力あるまち

(5) 地域づくりの方針

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 高次な都市機能が集積する本市の中心となるまちづくりを進めます。 ● 市街地周辺の田園風景、自然環境などの調整を図り、秩序ある市街地を形成します。
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 市役所から JR 松橋駅にかけて、多様な都市機能の集積とにぎわいの創出を図ります。 ● 歩いて暮らせるまちなかづくりを進めます。 ● 空き家、空き地など低未利用地の積極的に活用を図り、拠点の人口密度及び都市機能の維持・集約に努めます。 ● 松橋 IC 周辺の立地特性を活かした良好な産業用地の確保と誘導・集約を図ります。
基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩いて暮らせる市街地形成に向けた道路環境の向上を推進します。 ● 南豊崎、竹崎など生活拠点の交通利便性の確保に努めます。 ● 産業力を強化する IC アクセス道路の整備を促進します。

<p>自然・文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 本市の顔となるまちなみ景観の創出に努めます。 ● 無秩序な市街化を抑制し、市街地外縁の身近な田園環境や自然環境を保全・活用します。 ● 公園や河川のネットワークを活用し、まちなかの緑の創出を図ります。
<p>防災</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 市街地の災害リスクを考慮した河川改修の促進と減災につながる避難路、避難場所の整備、避難計画の充実を図ります。 ● 遊水地となる農地の保全に努めます。

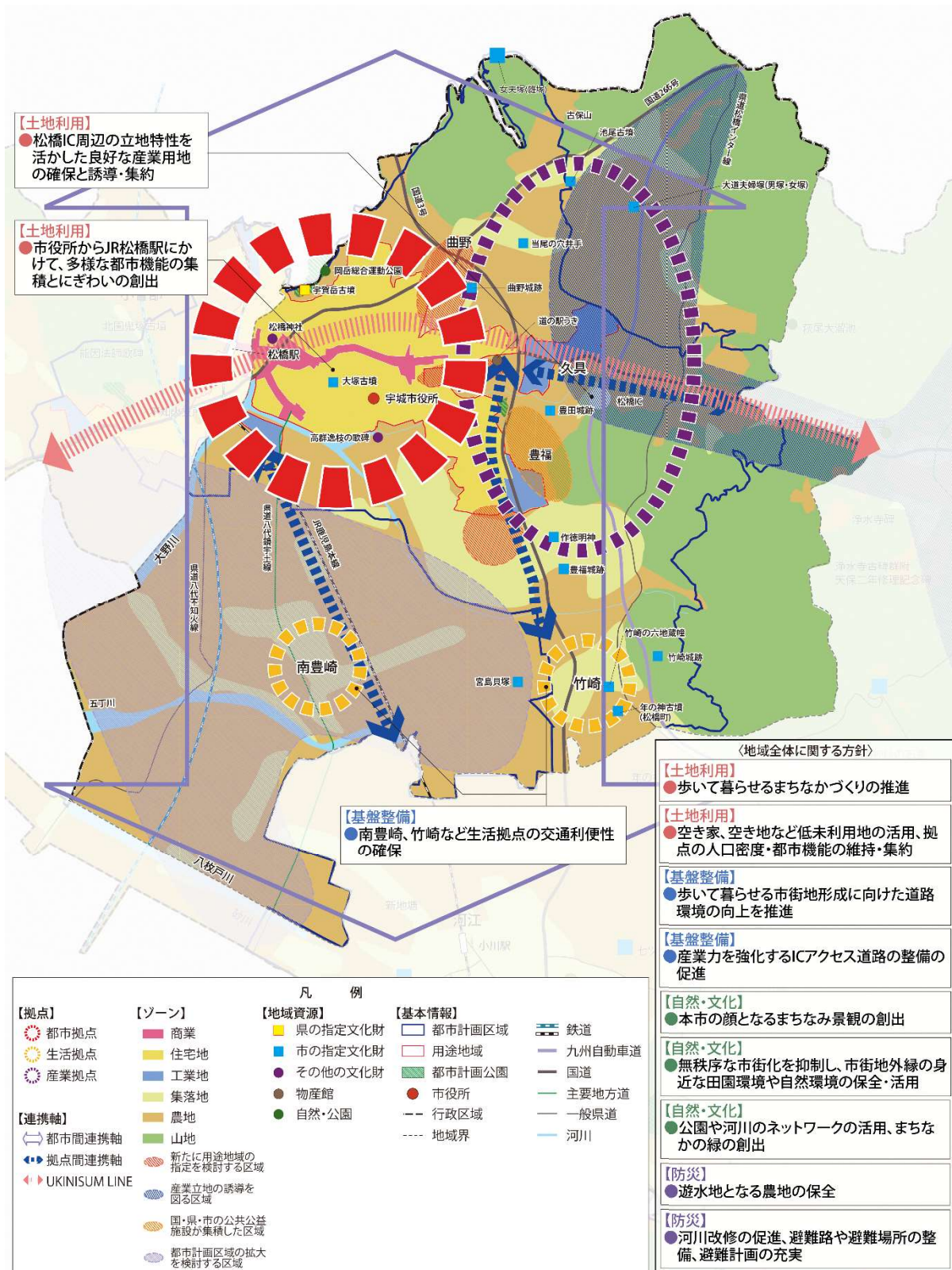


図 松橋地域の地域づくり方針図

2-4 小川地域

(1) 地域の現状

法適用		<ul style="list-style-type: none"> ●九州自動車道以西に都市計画区域が指定 ●平野部に農用地区域、山間部に民有林、一部に保安林が分布
人口	分布	<ul style="list-style-type: none"> ●R2 人口 12,294 人（市全体の約 21.6%）と松橋地域に次いで人口が多い地域 ●小川駅から小川支所周辺にかけて人口が集中
	推移・見通し	<ul style="list-style-type: none"> ●人口は一貫して減少傾向 ●R27 には小川支所周辺などの人口が増加し、人口密度が 50 人/ha 以上となる見込み ●R2 高齢化率は 36.1%と市全体と同等に推移 ●R27 では小川支所周辺などを除き、高齢化率が全体的に増加
土地利用		<ul style="list-style-type: none"> ●都市計画区域内は田が大半を占め、小川駅や小川支所周辺、幹線道路沿道を中心に市街地が分布 ●九州自動車道以東は山林の中に農地が点在
道路・交通網		<ul style="list-style-type: none"> ●国道 3 号が縦貫、主要地方道や県道が補完して縦貫 ●運行本数が往復 30 本/日を超える JR 小川駅が立地し、その周辺は公共交通の利便性が高い
都市施設・都市機能		<ul style="list-style-type: none"> ●地域中心部周辺は公共下水道が整備済み ●都市計画区域内に観音山総合運動公園が位置 ●国道 3 号沿道に大規模商業施設が立地 ●医療、福祉、子育て支援施設は、都市計画区域内に集積
災害リスク	洪水・土砂	<ul style="list-style-type: none"> ●都市計画区域内の広範囲に浸水想定区域が指定、想定浸水深 2.0~5.0m 未満の区域あり ●砂川に家屋倒壊等氾濫想定区域が指定 ●九州自動車道の付近や山間部の一部に土砂災害警戒区域等の指定あり ●都市計画区域外に大規模盛土造成地が 4 箇所指定
	高潮	<ul style="list-style-type: none"> ●地域に西側に浸水深 0.5m~5.0m の高潮浸水想定区域が指定
	津波	<ul style="list-style-type: none"> ●地域に西側に浸水深 0.3m~5.0m の津波浸水想定区域が指定

(2) 市民アンケート

生活環境 (現在の満足度・ 将来の重要度)	総合	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合的な暮らしやすさの満足度ポイントは、「0.43」で、最も満足度が高い
	項目別	<ul style="list-style-type: none"> ● 利便性の「買い物」の満足度が高く重要度意識も高いが、「医療施設」「公共交通機関」については重要度意識が高いが、満足度が低い ● 「地震」「水害(大雨・洪水)」「交通」といった安全性に対する満足度が低く、重要度意識が高い ● 「水や空気」の快適性に対する満足度が高く「ごみ・し尿処理」に対する重要度意識が高い
今後の都市づくりの 在り方		<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通の利便性低下を懸念する意見が他に比べ少ない
今後目指すべき方向性		<ul style="list-style-type: none"> ● 方向性を工業都市、住宅都市とする意見が他に対し最も多い ● 方向性を観光都市とする意見が他に対し最も少ない ● 安全なまちづくりに力を入れてほしい意見が最も多く、他に対し最も多い
居留意向		<ul style="list-style-type: none"> ● 定住志向が他に対し最も高い ● 転居理由として災害への不安、ライフステージの変化が最も多い ● 転居支援策として空き家・空き地の情報提供を求める声が他に比べ多い
土地利用		<ul style="list-style-type: none"> ● 市街地のオープンスペースの少なさが問題とする意見が他に比べ多い ● 定住促進を図るための土地利用・市街地整備を求める意見が他に対し最も多い ● 遊水機能など防災的な農地の役割が重要とする意見が他に対し最も多い
都市基盤	公園・ 緑地	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑道ネットワーク、観光公園の整備・改良を優先すべき意見が他に対し最も多い
	景観	<ul style="list-style-type: none"> ● 田園・農村景観づくりを優先すべき意見が他に対し最も多い
防災		<ul style="list-style-type: none"> ● 防災上必要な道路整備を優先すべき意見が他に対し最も多い

(3) 地域づくりの課題

地域の現状から見た課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活利便性を活かした定住促進と人口集積 ● 小川駅周辺と国道3号沿道大規模商業施設や支所周辺とのアクセス性向上 ● 市街化が進む小川駅から小川支所周辺の土地利用誘導策の導入 ● 氷川SICの利便性を活かした工業・流通産業の立地促進 ● 人口が集中する市街地の防災対策の推進
市民アンケート結果から見た課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通の利便性維持 ● 居住環境の整備による定住化促進 ● 田園・農村景観づくり ● 安全な避難につながる基盤整備

(4) 地域づくりの将来像

**田園とまちなかが共存する
交通利便性の高い誰もが住みよいまち**

(5) 地域づくりの方針

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活利便性を活かした市街地形成の推進と周辺の田園集落との共存を図ります。 ● 交通利便性の高さを活かした便利な暮らしが実現するまちづくりを推進します。
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ● JR小川駅周辺の都市機能の維持・充実に努め、適正な土地利用誘導と市外からの転入も踏まえた良好な市街地形成に努めます。 ● 地域拠点に用途地域の導入指定を検討します。 ● 宇城氷川SIC周辺の立地特性を活かした良好な産業用地の確保と誘導・集約を図ります。
基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ● JR小川駅の交通結節機能の向上と利便性の強化を図ります。 ● 小野部田、海東など生活拠点の交通利便性の確保に努めます。
自然・文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 河口部にかけての農地・田園景観の保全に努めます。 ● 心の原風景となる東部の山岳・丘陵地等の自然を保全します。 ● 大規模公園を中心に豊かな自然環境の活用を図ります。
防災	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活利便性を活かした市街地形成の推進と周辺の田園集落との共存を図ります。 ● 交通利便性の高さを活かした便利な暮らしが実現するまちづくりを推進します。

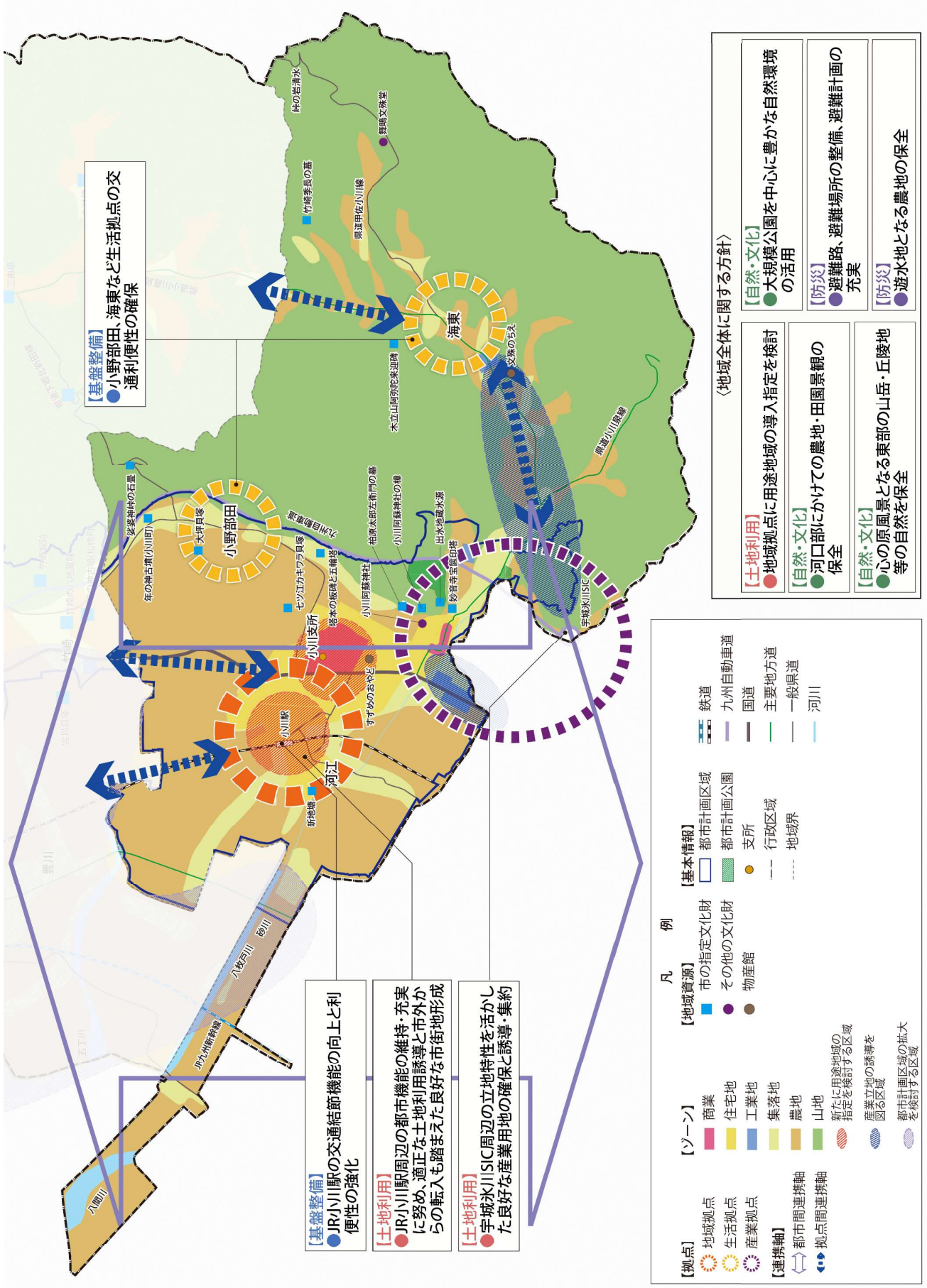


図 小川地域の地域づくり方針図

2-5 豊野地域

(1) 地域の現状

法適用		<ul style="list-style-type: none"> ● 地域全域が都市計画区域外 ● 谷部の農地は農用地区域、山間部は部分的に保安林が指定
人口	分布	<ul style="list-style-type: none"> ● R2 人口 3,821 人（市全体の約 6.7%）と市内で最も人口が少ない地域 ● 地域全域が 0.1～9.9 人/ha と低密度
	推移・見通し	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口は一貫して減少傾向 ● R27 には地域全域が 20 人/ha となる見込み ● R2 高齢化率は 42.9%と市全体より早いペースで高齢化が進行 ● R27 では居住地全体で高齢化率が増加
土地利用		<ul style="list-style-type: none"> ● 支所を中心に建物用地の集積はあるものの小規模で、その他のエリアでは比較的分散 ● 自然的土地利用が占める割合が圧倒的に多い
道路・交通網		<ul style="list-style-type: none"> ● 幹線道路は、地域中央部を東西に国道 218 号、南北に主要地方道が配置 ● 国道 218 号と主要地方道に沿ったバス路線網のみ
都市施設・都市機能		<ul style="list-style-type: none"> ● 商業施設は国道 218 号沿道に 2 件立地 ● 医療、福祉、子育て支援施設は居住地内に分散して立地
災害リスク	洪水・土砂	<ul style="list-style-type: none"> ● 山間部の集落地に洪水浸水想定区域が指定 ● 谷部傾斜地に土砂災害警戒区域等が指定 ● 大規模盛土造成地が 4 箇所指定
	高潮	<ul style="list-style-type: none"> ● 浸水想定区域なし
	津波	<ul style="list-style-type: none"> ● 浸水想定区域なし

(2) 市民アンケート

生活環境 (現在の満足度・ 将来の重要度)	総合	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合的な暮らしやすさの満足度ポイントは、「-0.06」で、不満傾向にある ● 重要度ポイント平均「0.63」と最も意識が低い
	項目別	<ul style="list-style-type: none"> ● 利便性の「買い物」「公共交通機関」「医療施設」について満足度が低く、重要度意識が高い ● 利便性の「公園・広場」「公共施設」、基盤の「公園整備」など満足度が低い、重要度意識も低い ● 「水や空気」「自然の豊かさ」といった快適性に対する満足度は高いが、重要度意識は低い
今後の都市づくりの 在り方		<ul style="list-style-type: none"> ● 農地や山林の荒廃を懸念する意見が他に対し最も多い ● 空き家の増加を懸念する意見が他に比べ多い
今後目指すべき方向性		<ul style="list-style-type: none"> ● 方向性を田園都市とする意見が他に対し最も多い ● 交通体系の整備、環境保全・景観形成に力を入れてほしい意見が他に対し最も多い
居留意向		<ul style="list-style-type: none"> ● 定住志向が他に対し最も低い ● 定住志向理由として災害不安の少なさが他に比べ多い ● 転居理由として買い物や医療の不便性が他に比べ多い ● 転居先として市外が最も高い ● 転居支援策として賃貸住宅の家賃補助を求める声が他に比べ多い
土地利用		<ul style="list-style-type: none"> ● 耕作放棄地や空き家・空き地の多さが問題とする意見が他に比べ多い ● サービス施設の充実、自然環境の保全を図る土地利用・市街地整備を求める意見が他に対し最も多い
都市基盤	道路	● 市内幹線道路の整備・改良を優先すべき意見が他に対し最も多い
	公園・ 緑地	● 体験型公園の整備・改良を優先すべき意見が他に対し最も多い
	景観	● 市街地のまちなみ景観づくりを優先すべき意見が他に対し最も多い
防災		● 土砂災害対策、インフラ災害復旧を優先すべき意見が他に対し最も多い

(3) 地域づくりの課題

地域の現状から見た課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 定住化の促進とコミュニティの維持 ● 支所周辺における日常生活に必要な都市機能の維持・向上 ● 都市拠点へのアクセス性の向上 ● 田園集落環境の維持・保全
市民アンケート結果から見た課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 身近な生活支援機能や交通利便性の向上 ● 公共施設や基盤整備など公的サービスの向上 ● 自然環境や営農環境の維持と活用

(4) 地域づくりの将来像

豊かな里山とふれあう
ゆとりと潤いを感じるまち

(5) 地域づくりの方針

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 里山や農地に抱かれた環境の中でゆったりと時間の流れる暮らしを実現します。 ● 身近な暮らしの生活利便性の確保とゆとりある生活環境の形成を図ります。
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 豊野支所周辺の都市機能の維持・充実に努め、地域住民の生活利便の確保に努めます。 ● 身近な山林、農地の保全を図ります。
基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 松橋地域の都市拠点との連携を促進する交通基盤の整備に努めます。
自然・文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 農振法や森林法に基づく営農環境、自然環境の保全を図るとともに、地域への支援や地元と協働した耕作放棄地対策や荒廃防止に努めます。 ● 暮らしに身近な里山、沢、農地などの景観を守ります。
防災	<ul style="list-style-type: none"> ● 土砂災害リスクの軽減と危険箇所からの移転誘導を進めます。 ● 下流域の災害リスク低減につながる山林の保全を推進します。

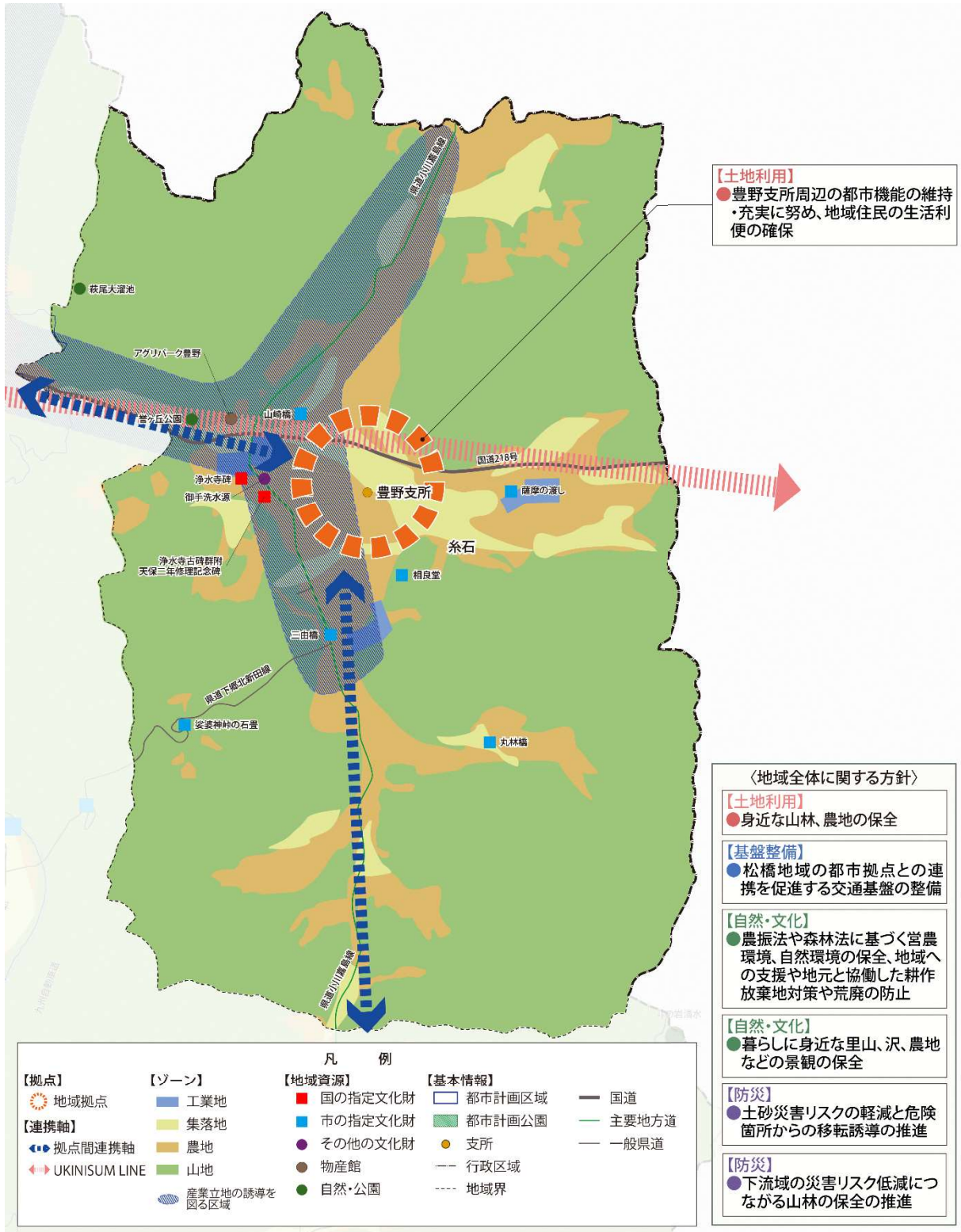


図 豊野地域の地域づくり方針図